

発生日	国名	種別	概要
2023年 4月2日	コンゴ民主共和国	地すべり	4月2日にコンゴ民主共和国（DRC）東部で発生した地すべりにより、少なくとも20人の死亡が確認された。 災害は北キブ（North Kivu）州のマシシ（Masisi）地方のブルワ（Bulwa）村で発生。地元当局によると、災害発生時、川で洗濯と血洗いをしていた母親と子どもたち約25人が被災したとのこと。救助活動により、女性8人と子ども13人が瓦礫から発見されたが、20人が死亡し、生存者1人が病院に運ばれた。北キブ州知事のスポークスマンは、まだ泥に閉じ込められた人がいる可能性があるとして、3日以降も捜索救助活動を実施すると報じた。
5月2日	ルワンダ	地すべり	ルワンダ政府は、5月2日から3日にかけて発生した洪水と地すべりにより、少なくとも135人が死亡し、1人が行方不明になったと報じた。 また、緊急事態管理担当省は6日に、約110人が負傷し、13人が医療施設に入院、被災した複数の州では5,963戸の家屋が倒壊、20,000人以上が83の施設に避難したと報じた。 新華社通信によると、同省は20本の国道、発電所12か所、浄水場8か所が破壊されたと述べた。 災害はルワンダの西部、北部、南部の州を襲った大雨によって引き起こされた。死者の大半はキブ（Kivu）湖に面した西部に集中した。
5月4日	コンゴ民主共和国	土石流	5月4日、中央アフリカのコンゴ民主共和国（DRC）東部で、大規模な土石流が発生し、少なくとも394人が死亡した。 南キブ（South Kivu）州カレヘ（Kalehe）で4日、豪雨により川が氾濫し、二つの集落で土石流が発生。民家や市場、学校2校、保健センターなどがあった地区が土砂に飲み込まれた。 政府は被災した地元当局を支援するための政府調査団の派遣と8日を服喪の日とすることを表明した。 緊急医療援助団体「国境なき医師団（MSF）」も、緊急支援チームを現場に派遣したと発表した。
5月27日	パキスタン	雪崩	パキスタンの警察当局は27日、北部ギルギット・バルティスタン（Gilgit-Baltistan）州の山岳地帯、海拔4,270mの地点で発生した雪崩が、ヤギの群れを追っていた遊牧民を襲い、4歳の男児、4人の女性を含む11人が死亡、25人が負傷したと発表した。 雪崩は同州とアザド・カシミール（Azad Jammu and Kashmir）州を結ぶ峠で27日早朝に発生した。 地元の救助隊は雪崩が発生したエリアに行けず、陸軍に支援要請を行った。 軍はヘリコプターを現場に派遣し、地元の救助活動を支援したと報じた。 州警察の報道官によると、負傷者は現地から5kmほど離れた病院に搬送された。 ギルギット・バルティスタン州はパキスタンで最も険しい地域の一つであり、地球温暖化の影響を受けて気温が上昇し、雪崩のリスクが高まっていた。
6月4日	中国	地すべり	6月4日、中国南西部の四川（Sichuan）省の鉱山で地すべりが発生し、19人が死亡したと中国中央テレビ（CCTV）が報じた。 地すべりは午前6時頃、省南部の楽山（Leshan）市近くの山岳地帯で発生した。 CCTVによると、地すべりは地元の鉱山会社の生産現場や生活施設、車両の上に崩壊した。 180人以上の救助隊員が現場に派遣され、捜索救助活動を行った。救助隊員は、「最近数日間、現地では小雨が降っていたが、雨量はそれほど多くなかった。事故現場は鉱山の渓谷に位置しており、当時も26人の作業員が鉱山の採掘を行っていた。犠牲になった19人は全て鉱山の作業員だ。」と述べた。
6月5日	ハイチ	土砂災害	6月5日、カリブ海（Caribbean Sea）の島国ハイチの当局は、週末の豪雨により洪水や土砂災害が発生し、少なくとも42人が死亡、11人が行方不明になったと報じた。 全10県のうち7県が豪雨に見舞われた。国連（UN）によると、37,000人が影響を受け、13,400人が避難した。 特に首都ポルトープランス（Port-au-Prince）の南西40kmの地点にあるレオガン（Leogane）市では、3本の河川が氾濫し、深刻な被害を受けた。ハイチ当局によると、同市では少なくとも20人が亡くなった。 市長は、「住民は絶望している。農地は浸水し、家畜は流され、すべてを失った」と述べた。数千世帯が被災しており、食料や水、医薬品などの緊急援助が必要だと訴えた。 ハイチでは治安悪化や政情不安、景気低迷を背景に人道危機が続いている。今回多数の犠牲者が出たことで、ハリケーンの季節を控え、自然災害への脆弱性も浮き彫りになった。

発生日	国名	種別	概要
7月9日	インド	土砂災害	7月9日、インドのPT通信 (Press Trust of India) は、モンスーンによる豪雨で洪水や土砂災害が発生し、北部6州で24時間以内に少なくとも15人が死亡したと伝えた。ニューデリー (New Delhi) の降水量は、7月の1日当たりとしてはここ40年で最大となる153mmとなり、一部道路では浸水深が膝の高さにまで達した。当局は10日、ニューデリー市内の学校に休校を指示した。災害管理当局によると山岳地帯の被害が最も深刻で、ヒマチャルプラデシュ (Himachal Pradesh) 州では土砂災害により6人が死亡、道路700か所が通行止めとなった。
7月18日	コロンビア	地すべり	7月18日、コロンビア中部クンディナマルカ (Cundinamarca) 県クエタメ (Quetame) の町で地すべりが発生し、26人が遺体で見えられたと当局が報じた。更に21日に再度地すべりが発生する可能性があるため、ネグロ (Negro) 川とコンタドール (Contador) 川に挟まれた地区の100世帯以上が避難を余儀なくされた。クエタメ市によると、20軒の家が泥に埋まり、橋も破壊され、ボゴタ (Bogota) と農業地帯であるメタ (Meta) 県のビリャビセンシオ (Villavicencio) を結ぶ高速道路が通行止めになったとのこと。
7月20日	インド	土石流	7月20日、インド・マハラシュトラ (Maharashtra) 州で豪雨に伴い大規模な土石流が発生し、27人が死亡、少なくとも50人が行方不明となった。22日の当局の報道によると、土石流は20日、同州の州都ムンバイ (Mumbai) から約100km離れたライガド (Raigad) 県で発生。インド国家災害対応部隊 (NDRF) は、土砂やがれきを取り除いて遺体の捜索を行い、22日の段階で27人の遺体が確認され、50～60人が依然行方不明と報告。また、現場は道路から約5km離れているため、重機を投入できず、作業はほとんど人力で行われており、救助活動は難航したと報じた。
7月22日	アフガニスタン	土石流	イスラム原理主義勢力タリバン (Taliban) 暫定政権は、7月22日以降、アフガニスタン中部と東部、特にマイダンワルダク (Maidan Wardak) 州、ホースト (Khost) 州、カブール (Kabul) 地域に降り続いた大雨により土石流が発生し、死傷者を含む被害が発生したと報じた。特に、マイダンワルダク州のジャレス (Jalrez)、サイダバード (Saidabad)、チャキワルダク (Chaki Wardak)、マイダンシャー (Maidan Shahr) 地区では、24日までに31人の死者、41人の行方不明者、74人の負傷者が確認され、同じ州全体で約600軒の家屋が損傷または破壊されたと報じた。
8月1日	中国	土石流	8月1日の中国中央テレビ (CCTV) の報道によると、首都北京と隣接する河北 (Hebei) 省が豪雨に見舞われ、各地で洪水や土砂崩れが発生し、少なくとも20人が死亡し、19人が行方不明になった。フィリピンに大雨をもたらした台風5号 (アジア名: トクスリ (Doksuri)) は7月28日に中国・福建 (Fujian) 省に上陸して北上し、後に熱帯低気圧に変わった。北京と河北省は29日以降、豪雨に見舞われ、40時間で北京の7月の平均降水量とほぼ同量の雨が降った。河北省では1日正午までの総雨量が多い所で1000mmに達した。北京では豪雨の影響で救助隊員2人を含む11人が死亡し、13人が行方不明に、河北省では死者は9人、行方不明者は6人となった。習近平国家主席は1日、行方不明者の捜索などに全力を尽くすよう指示を出した。
8月3日	ジョージア	土石流	8月3日、ジョージア西部のショビ (Shovi) 市で土石流が発生し、高地のリゾート「サンセットショビ」周辺を飲み込み、コテージや家を埋めた。200人以上の救助隊員とボランティアが死者と行方不明者の捜索を行った。8月7日、3日の大規模な土石流で子どもを含む少なくとも18人が死亡し、さらに18人が行方不明となったことを受け、ジョージアは喪の日を宣言し、政府の建物は半旗を掲げた。救助隊は、生存者を見つける可能性は極めて低いと報じた。内務省 (MIA) は、山岳作業、建設作業、その他の作業中の安全規則の違反と過失による死亡の点から、法に基づく調査を開始したと報告した。
8月11日	中国	土石流	中国陝西省 (Shaanxi) 西安市 (Xi'an) の応急管理部門は13日、同市長安区灊 (らん) 鎮街道喂子坪村で11日に起きた局地的大雨による土石流で、21人が死亡、6人が行方不明となったと発表した。同市は対策本部を設置し、消防や警察など14チーム、計980人余りと生存者探査装置や衛星電話、掘削機などの設備約1,100台、災害捜索犬を投入し、行方不明者の捜索救助と被災者の避難を行った。この土石流で、家屋や道路などが損壊したほか、広い範囲で停電も起きた。市は通信や電力などの回復を急ぐとともに、河川の堤防補強などを通じて二次災害の発生防止に努めた。

発生日	国名	種別	概要
8月13日	インド	地すべり	<p>インド北部で豪雨による洪水や地すべりが相次いで発生し、少なくとも49人が死亡した。そのうち9人は、ヒンズー教寺院が土砂災害により倒壊したためであり、犠牲者はさらに増える恐れがあると、地元メディアが14日伝えた。北部のヒマチャルプラデシュ (Himachal Pradesh) 州と隣接するウッタラカンド (Uttarakhand) 州では、数日間続いた豪雨で車が流され、建物や橋が崩壊した。</p> <p>ヒマチャルプラデシュ州当局によると、同州では過去24時間に41人が死亡、うち少なくとも9人は州都シムラ (Shimla) でのヒンズー教寺院倒壊で犠牲になった。この他、少なくとも13人が行方不明になった。</p> <p>ウッタラカンド州当局によると、同州では11日以降、少なくとも8人が死亡したとのこと。</p> <p>インドのヒマラヤ北部では、6月から9月のモンスーンシーズンに、豪雨による洪水、地すべり、土石流が多発する。しかし、科学者は、地球温暖化が氷河の融解を進行し、発生頻度が増加していると指摘している。</p>
8月13日	ミャンマー	土砂崩れ	<p>ミャンマー北部のヒスイ鉱山で、積み上げられていた土砂が、豪雨により地すべりを起こし、救助隊が14日に明らかにしたところでは、少なくとも40人が行方不明となった。また、ミャンマー各地では豪雨が続き、洪水も発生した。</p> <p>地すべりは13日、北部カチン (Kachin) 州パカン (Hpakant) 郊外で発生。今回の現場近くにあるヒスイ鉱山では2020年にも、豪雨による地すべりで100人以上が犠牲となった。</p> <p>ヒスイ採掘は収益性が高いが、ほとんど規制されていないため、出稼ぎ労働者が危険な環境で採掘に従事しており、死亡事故が後を絶たない。</p> <p>現場で救助隊員は、「40人前後が行方不明となった。行方不明者の詳細はわかっていない」と説明した。現場では採掘によって出た土が、約150~180mの高さに積み上げられており、豪雨により崩れたとのこと。</p> <p>現場では二次災害の危険もある中、救助活動が行われた。</p> <p>通常、雨期には採掘が行われておらず、今回事故に巻き込まれたのは、ヒスイを探す周辺住民とのこと。</p>
8月21日	中国	土石流	<p>四川 (Sichuan) 省人民政府は30日、同省金陽 (Jinyang) 県で記者会見を開き、「8月21日の土石流災害」についての最新状況を発表した。発表によると、21日未明の集中豪雨により、土石流が金陽県の高速度道路の工事現場を襲った。201人の工事関係者のうち、30日までに149人が救助されたが、4人の死亡と48人の行方不明者が確認された。</p> <p>当局は調査の結果、高速度道路プロジェクト関連部門と建設会社の関係者5人に「災害事故の無報告および虚偽報告」の疑いがあるとし、警察は28日、5人に対して取り調べのための刑事拘留措置を執行した。</p>
9月13日	ベトナム	土石流 地すべり	<p>12日遅くから13日早朝の豪雨により、ベトナム北部のラオカイ (Lao Cai) 省で、土石流や地すべりが発生し、少なくとも9人の死者と4人の行方不明者が出たと、ASEAN災害情報ネットワーク (ADINet) が報じた。</p> <p>地元メディアは、ラオカイ、ハザン (Ha Giang)、イエンバイ (Yen Bai) の各州で21の家屋、61の養魚場、180haの農場が被害を受けたと伝えた。</p> <p>地元当局は、引き続きベトナム北東部と北西部で、局地的な豪雨が予測される中、約300人を動員して捜索救助活動を実施した。</p>
9月25日	グアテマラ	土石流	<p>9月24日から25日にかけての豪雨により、グアテマラのグアテマラシティ (Guatemala City) 近郊でエルナランホ (El Naranjo) 川の堤防が決壊し土石流が発生、グアテマラシティのゾーン7にあるディオスエスフィエル (Dios Es Fiel) 集落を襲った。</p> <p>土石流は6軒の家を破壊し、緊急報告によると、少なくとも19人が行方不明になった。また数家族が避難施設に移動した。</p> <p>国家防災調整局 (CONRED: Coordinadora Nacional para la Reducción de Desastres) の職員と消防士のチームは、救助犬とともに25日に捜索救助活動を開始し、6人の遺体を発見した。</p> <p>同国では22日にも、チマルテナンゴ (Chimaltenango) 県サンペドロイエポカパ (San Pedro Yepocapa) にあるサンクリストバル (San Cristobal) 地区で大雨により建設現場の一部が崩壊し、パイプラインを敷設していた6人の労働者が死亡した。</p> <p>CONREDは9月25日、今回の雨季では800件以上の雨関連事故で、少なくとも32人が命を落としたと発表した。</p>